

令和6年度 第3回石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 議事録

要点筆記

■日時：令和7年2月20日（木）10時～11時15分

■場所：石狩市民図書館 視聴覚ホール

■出席者：下記表のとおり

委員		事務局	
役職	氏 名	所 属	氏 名
委員長	田岡 克介	社会教育部市民図書館館長	伊藤 学志
委員	石橋 孝夫	社会教育部市民図書館副館長	岩城 千恵
委員	村山 耀一	社会教育部市民図書館主査	工藤 一也
委員	三島 照子	社会教育部市民図書館主任	吉岡 律子
委員	志賀 健司	社会教育部市民図書館主任	大塚 隆宣
委員	工藤 義衛		

■傍聴者：なし

次第1 開会

【事務局（大塚）】

本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻より若干早いですが、只今より「第3回叢書発刊編集委員会」を開会いたします。なお、只今3月議会中であり、図書館に関わる質問があったため、議員対応により岩城副館長と工藤主査が途中、離席しますのでよろしくお願いします。

それでは、田岡委員長にご挨拶をいただき始めたいと思います。この後は、田岡委員長に進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

次第2 委員長挨拶

【田岡委員長】

皆さんお疲れ様です。日ごろから執筆や研究にご協力に感謝しております。石油史ということで、方向性を持って進めてきましたが、書き出すと思ったより厄介だなという感想を持っています。9月の委員会から少し時期はあきましたが、一度皆さんで集まっていただき、進捗具合を確認することや、全体調整で無駄を省く、或いは重点をどこに置いていくのか、編集の仕方大きく変わる部分もあろうかと思っています。今日は、「石狩の油田」の執筆状況の確認しながら、この後事務局から説明していただき、皆さんと情報共有をしていきたいと思っています。本日も忌憚のない意見をいただければと思います。

次第3 (I) 石狩叢書第4巻の発刊について

【田岡委員長】

それでは、本日の議題に入ります。

進捗状況と、既に提出のあった原稿案について、あわせて事務局より説明願います。

【事務局（大塚）】

それでは、先に送付しました資料を基に説明いたします。

まず初めに A3 縦使いの資料 1 が進捗状況でございます。こちらを見ながら A4 ファイルの原稿とあわせて見ていただければと思います。

9月の第2回の当委員会におきまして、エピソード構成案により、それぞれ執筆者や取材者などの役割をお願いしたところでございます。執筆者や取材者におかれましては、お忙しい中、ご尽力をいただいております、有難うございます。

まだまだ、原稿案が揃っている状況ではありません。これからスパートをかけて執筆活動を3月末までをお願いしたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

それでは、A3 縦使いの資料 1、進捗状況のご説明を致します。

まず左端の番号が A4 ファイルと符合しております。A3 資料の全体を眺めると水色が現在執筆中で、色の付いていないエピソードは原稿案が提出済となっています。

それでは、No1 から説明します。この委員会で、本のタイトルを決めなければなりませんので、全体を見ながら、ご審議を賜りたいと思います。

No2 の導入部分については、志賀さんの方で執筆中であります。

No3 及び No4 の地図につきましては、A4 の資料を見ていただきたいのですが、グーグルなどの地図上に、原稿に出てくる地名などを掲載しようと考えておりますが、令和7年度に編集業務を外注する予定でありますので、細かい部分は専門業者のお力を借りたいと考えています。

No5 の油田の写真ですか、文化財課のご協力をいただきたいと思います。

No6 の黎明期については、石橋委員に執筆いただきました。

No.7 の産業史の部分です。産業考古学会の山田会長に3月末までに執筆いただけることとなっております。

No8 の産業については、工藤委員に執筆をお願いしております。今回全体を眺めて見ると、次の生活のエピソードが多くなっていることもありまして、工藤委員にはお手数ですが、石狩油田の歴史、流れが見えるような基本的な柱を加えて書いていただきたいと思います。

No9 の生活は田岡委員長に執筆を頂きました。

No10 及び No11 については、中村秋雄さんの紹介のあと、中村さんの原稿を掲載しています。

No12No13 は岩本さんが書き溜めてあった原稿に、三島委員の取材を加えたもので村山委員、副館長、吉岡さんに校正いただきました。

No14～No19 については三島委員が取材をし、取材を受けた本人の言葉をなるべく残す形で掲載しています。

No20 の伊夜日子神社については、坂本さんが3月末までに執筆されます。

No21 の地形地質については志賀委員が執筆中です。

No22 の活動については、先ほどと同様に、岩本さんが書き溜めてあった原稿に、三島委員の取材を加えたもので、村山委員、副館長、吉岡さんに校正いただきました。

No23 の年表については、吉岡さんが広めに拾って記載していますが、志賀委員の方で少し削っていただいている最中です。

No24 のあとがきについては、原稿が揃った段階で田岡委員長にまとめてもらいたいと思っています。

No25 は執筆者略歴です。事務局で準備します。以上です。

【田岡委員長】

ただ今、事務局から説明がありましたが、ご質問、意見等ありませんか？

【石橋委員】

原稿の順番ですが、地形地質が後ろの方になっていますが、時系列的に前段に持ってきた方が良いと考えますがいかがでしょうか？

【志賀委員】

時系列での掲載方法もありますが、前段は石狩油田の話が中心になるので、後段で、そもそも「石油ってなんだろう」と言う記載の方が、読みやすいかなと考えました。

【工藤委員】

「石狩油田」とは何かと考えた時に、地質的にかかわる部分が多いので、私は前段の方が良いと思います。

【田岡委員長】

石油の場合、年代によって採れる場所も違う。地図にどのように掲載するかも重要です。そういう意味では前段に地形地質を持ってきた方が読みやすいのかもしれませんが、全体の原稿が揃ってから、また協議することが必要ですね。次回の委員会でそのあたりは協議しましょう。

【石橋委員】

産業史の北海道産業考古学会の山田先生の前稿によっては、その後に続く産業史に影響がありますので、山田先生の前稿が重要なポイントになります。

【事務局（大塚）】

山田先生にお会いした時には、日本の油田の歴史から北海道と順に執筆していくようなイメージをお持ちでした。ですから、その後の石狩の油田については工藤さんをお願いしたいと考えていました。

【工藤委員】

山田先生の前稿に続いて、それじゃ石狩の油田はとつながれば良いのですが、まだ原稿が出来上がっておりませんので、話の流れが重要になります。

【志賀委員】

私が今思ったのは、地形地質の関係ですが、最初の方で石狩油田に関わる話のなかで、多少触れて、後半はそもそも石油ってなんだという広い話で執筆するのはどうだろうかと考えました。

【三島委員】

私は、今提案のあった志賀委員の考えに賛成です。とても分かりやすく感じます。とにかく皆さんが早く原稿を出してくることが重要ですね。

【田岡委員長】

A3 の表の青い着色した部分が、原稿が出来ていないエピソードになります。

【三島委員】

油田に興味がない方にとっても、読みやすい本にしなければならないと思います。

【事務局（岩城副館長）】

私は、校正にかかわりましたが、読み進める中で石狩油田に興味を持つことが出来ました。油田の匂いや色の違いなど、みずみずしい内容でした。子ども達にとって読みやすい叢書にしていきたいと考えています。

【田岡委員長】

編集をどうするかについては、もう少し原稿が揃ってからというほうが、良いかもしれません。少しずつ詰めていきましょう。

【田岡委員長】

八の沢の地図を果たしてどう表現するのか、或いは他の油田の地図をどう表現するのか。地図上にどう標記するかは非常に難しいと受け止めました。

【三島委員】

ページ数を増やして、地図を多めにする方法しかないかもしれません。

【工藤委員】

全体を標記するのか、八の沢鉱業所にスポットをあてるのか、非常に悩ましい問題だと思います。

ある程度の地図の数は必要だとは思いますが。

【志賀委員】

広域の北海道の地図に石狩市を示し、少しずつ細かく拡大図が必要になります。枚数を増やす方がベターです。札幌市や花川に居住されている方が多いので、そのあたりを意識した地図が必要ですね。

【田岡委員長】

原稿に併せた地図が必要ですね。私も来札のタンクの位置や、軌道の位置が少しわからなくなってきました。それは時代の変遷で場所が動いているのか、記憶が曖昧になってきています。広域的な図面は巻頭に必要ですね。

【石橋委員】

今回の原稿で図面を入れましたが、峻別の地名など調べきれない場合もあるので、ざっくりと記載するほうが良いと思います。

【村山委員】

石狩油田の関りは私なりに理解していますが、今回のコラムの中でも厚田油田の油は馬で八の沢に運んだという記載もありまして、私自身何が真実かわからない部分も出てきました。パイプラインや軌道については、私も市民カレッジで市民の方に現地で案内をしましたが、例えば、道路の右側か左側、どちら側に軌道が敷設されていたかなど、多くの疑問が出てきました。

【田岡委員長】

今回の原稿にパイプラインの地図はあったでしょうか。

【事務局（大塚）】

4Pの地図に記載があります。

【田岡委員長】

パイプラインの場所も時代によって場所が変わっている可能性も否定できません。

パイプラインとオイルタンクはその可能性が高いですね。しっかり調べる必要があります。知人にも電話で尋ねましたが、皆さん記憶が曖昧でした。

【三島委員】

石油会社で図面とかないのでしょうか？

【石橋委員】

インターナショナル石油の日誌の中では、道路の脇を3尺借りて敷設したと記載があります。

【田岡委員長】

日本石油の資料室に、一度調べに行く必要があるかもしれませんね。

【石橋委員】

その方法もありますが、深みにはまりますので得策ではないかもしれません。

【三島委員】

厚田の奥本協力隊の方が知っているかもしれません。

【事務局（大塚）】

確認してみます。

【田岡委員長】

吉岡さんにお聞きしますが、「石油時報」のボリュームはどのくらいですか？

【事務局（吉岡）】

「石油時報」は、月刊誌になりまして、冊数は膨大です。国会図書館の検索機能を使ってキーワード検索を行いました。

【村山委員】

パイプラインの件ですが、最初は石狩川を横断していましたが、その後地上ケーブルになりました。私の知っている限りでは、川の流れて押し流され機能しなくなり、地上へと切り替えられたと認識しています。

【田岡委員長】

そのあたりは、どこかに記載がありますか？

【事務局（吉岡）】

そのあたりは、「石油時報」に記載があります。費用面だとか村山委員が言われた、パイプラインが流される課題があったとの記載があります。

【石橋委員】

そのあたりの時代は、経済的な問題と政治的な問題が複雑に出てきます。

【三島委員】

もう少し深堀して調べることもできますね。

【田岡委員長】

経営者が変わることや、時代によって設備の場所が変わるので、難しい問題です。

【志賀委員】

この本は、研究報告の場ではないので、適度に切り上げることも必要です。勿論、調査研究

は大事なことだと考えますが、「いしかり暦」や資料館「紀要」で取り上げるべきことです。

【田岡委員長】

今、市では2500分の一の地図ありますか？

【事務局（大塚）】

25000分の一はありますが、その縮尺は確認してみます。

【事務局（大塚）】

本日、志賀委員から新たな資料が提出されていますので、配布します。

【田岡委員長】

それでは、志賀委員から説明をお願いします。

【志賀委員】

地形地質のポイントを5つにまとめました。先ほどお話ししたように、この中からいくつか前段に記載してはどうかと思っています。トピック的な話は後段に記載したいと思います。

【三島委員】

石油からどのような製品が出来てくるのか。このあたりは誰が執筆するのですか？

【工藤委員】

今回は「石狩油田」というタイトルで叢書を発刊しますので、石油製品の話は、少し広げすぎだと感じています。

【志賀委員】

プラスチックが石油から出来ていることなどを掲載することは、大事な視点だと思いますが、どのあたりまで執筆するかが重要ですね。

【三島委員】

洗剤なんかもそうでしょうし、今の子供たちに読んでもらうには、少し掲載するほうが良いと思います。

【工藤委員】

少しだけ掲載することの方が難しいかもしれません。年代的な製品の推移も出てくるでしょうから、そうすると「石狩油田」の中に収めていくのは難しい気がします。

【石橋委員】

三島さんがコラム的に執筆する方法はあります。

【志賀委員】

石油の事を考えてもらうきっかけになりますので、私が執筆する分野で、少し触れてみたいと思います。

【田岡委員長】

これからのスケジュールはどうなっていますか？

【事務局（大塚）】

執筆状況によりますが、令和7年度の前半に編集を外注し、冬場に印刷になります。原稿の締め切りは令和7年3月末としています。

【田岡委員長】

石狩油田は、どんどん謎が深まっていく難しいテーマで、私も「石川文庫」というものを、今回見せてもらいましたが、これは他の本に掲載されていますか？

【事務局（大塚）】

この「石川文庫」は、岩本さんから入手したもので、岩本さんが発刊された「石狩油田史」を報道で知った石川さんの息子から託されたと聞いています。発刊後ですから、他の本に執筆はされていません。解説は息子さんの知人の大学の先生と聞いています。

【工藤委員】

石川さんはどのような方ですか？

【田岡委員長】

八の沢油田で働いていた石川さんという方です。

【工藤委員】

そうすると、ライマンの弟子の石川さんでしょうかね。

【石橋委員】

私も読みましたが、少し間違いもありましたので、私なりに解説をしてみました。（コピー配布）

【工藤委員】

こういう資料は、入手した時点ですぐ委員に配布しなければ、この場で意見を求められても困るので、必要性は事務局で判断しないで、資料の配布をお願いします。

【田岡委員長】

「石川文庫」を叢書の資料編として掲載することの検討が必要ですね。

【石橋委員】

許諾を取ることも必要ですね。岩本さんの許諾でなく、石川さんの許諾が必要になります。

【工藤委員】

先ほど話に出た「石油時報」などの資料も、きちんと各委員に配布しないと、この委員会で初めて聞く話や資料が出てくるというのは、やめた方がいいと思います。書き手側で全部調べて執筆すれというのは違うと思います。

【田岡委員長】

今回の会議をもう少し早く開催すれば良かったですね。

「石川文庫」の原本は何処にありますか？

【事務局（大塚）】

お手元にあるのはコピーのコピーです。原本の所在は確認しておきます。

【三島委員】

資料編として掲載したいですね。

【石橋委員】

吉岡さんが調べた文書館の資料を読むとすごく面白いのですが、深くはまるときりがありません。

【三島委員】

その資料も工藤委員には事務局から渡ってないのですか？

【事務局（大塚）】

はい。

【田岡委員長】

今日は、こんなところですかね。次回も年度内にできればいいですね。

【石橋委員】

全体の原稿が出来上がってこないと、年表などの整理もありますし、そのあたりがポイントです。

【田岡委員長】

昭和 50 年代に 2 年間かけて石狩で石油の調査をやっています。そのあたりも年表に記載が必要です。

【工藤委員】

その調査については、私の方で調べておきます。

【田岡委員長】

その他で事務局から何かありますか？

【事務局（大塚）】

特にありません。

【田岡委員長】

その他、質問がないようでしたら、本日の審議については、これで終了したいと思います。
委員のみなさまにおかれましては、ご審議を賜りありがとうございました。

令和 7 年 3 月 17 日 議事録確定

石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 委員長

